

平成 28 年度 栗東歴史民俗博物館協議会の概要

開催日時 平成 29 年 2 月 24 日（金曜日）14 時から 15 時 30 分まで

開催場所 栗東歴史民俗博物館 会議室

出席者

協議会委員

西尾 悦子（会長）、中野 光一（副会長）、大橋 信弥、澁江 善光、
月野 みつ、山内 君代、山本 喜三雄、吉見 静子

の各委員

事務局

三浦 英幸（スポーツ・文化振興課長）

松村 浩（歴史民俗博物館長）

大西 稔子（歴史民俗博物館学芸員・主幹）

中川 敦之（歴史民俗博物館学芸員・主査）

欠席者

協議会委員

石丸 正運、川波 重和

の各委員

傍聴者 0 名

概要

1. あいさつ
2. 委嘱状の交付について
3. 協議事項
 - ①会長・副会長の選出について
 - ②平成 28 年度博物館事業について
 - ③平成 29 年度博物館事業について
 - ④その他
4. 閉会

議事

1. あいさつ
開会のあいさつ（三浦 英幸 スポーツ・文化振興課長）
2. 委嘱状の交付
協議会資料とあわせて配布

3. 協議事項

①会長・副会長の選出について

委員の互選により西尾 悦子 会長、中野 光一 副会長を選任。
就任のあいさつ（西尾 悦子 会長）

②平成 28 年度博物館事業について

③平成 29 年度博物館事業について

事務局職員の紹介に引き続き、資料に沿って事務局より報告・説明。

- (委 員) 平成 29 年度の (案) にあがっている特集展示「(仮称) 手仕事の時代—文字からたどる民俗資料のルーツ—」に関連して、栗東の家内工業に関心がある。蚕を扱っていたのだろうかと思うが、栗東にはどのような産業があり、特に女性がどのような仕事をしていたのかということが知りたい。
- (事 務 局) 蚕の道具は、多くは残されていない。女性の仕事として、特に冬場は織りを行っていた。展覧会では、手仕事で作られている民具に焦点をあて、残された文字から民具の流通などをたどっていく。
- (委 員) 以前、野洲市歴史民俗博物館で火起こし体験を行ったことがある。移築民家旧中島家住宅での火吹き体験とあわせて体験できればと思う。
- (事 務 局) 火吹きについては、旧中島家住宅のかまどに火が入っている土日祝日には体験していただける。火起こしについても、過去に栗東市出土文化財センターと協力して実施したことがあり、また検討していきたい。
- (委 員) 特集展示「(仮称) 手仕事の時代—文字からたどる民俗資料のルーツ—」で扱う民具には、文字が書かれているのか。
- (事 務 局) 焼印が押されている場合が多い。それらを調べていくことで、民具の流通ルートをたどっていけるのではないかと考えている。
- (委 員) 滋賀県外からも流入しているのか。
- (事 務 局) 近世のトオシが京都の針金屋から入ってきている例などがある。
- (委 員) 麻織物の産地として知られる湖東地域では、ダイドコに面してハタオリマドが設けられているなど、建築物にも特徴がある。建築物との関連をみていっても面白いのではないか。
- (委 員) 平成 29 年度の (案) にあがっている企画展「(仮称) 出た・見た・触れた 先人からのメッセージ～湖南の最新発掘調査成果を中心に～」について、各自治体での発掘調査の件数は減少傾向にあるが、“湖南”という地域を対象とすれば、立派な成果展になるのではないか。2、3 年前までさかのぼった成果になるのか。
- (事 務 局) 過去には、滋賀県立琵琶湖博物館でこのような成果展を開催したことが

ある。今回は2、3年前までさかのぼり、巡回展示も行いたい。発掘調査の件数が減少傾向にあるなかで、湖南地域は比較的多くの発掘が行われている。各自治体でも成果展は開催しているが、一度に見られる機会はあまりなく、

- (委 員) 見る機会が増えるというのは、ありがたいことだと感じる。
- (事 務 局) 平成 28 年度の事業報告であった草津市・栗東市連携展示「KURITA BLUR－名産青花と青花紙のある風景－」や、公益財団法人日本習字教育財団 観峰館（東近江市）と共催した企画展「琵琶湖誕生－日本・世界が見聞した琵琶湖－」のように、地域をまたいだ事業を展開するのは確かに有意義である。一方で、隣接する栗東市立図書館など、栗東市内の他機関との連携は行っているのか。
- (事 務 局) 生涯学習課が、各学区のコミュニティセンターで開催している「はつらつ教養大学」に講師として出向いている。過去には、栗東市出土文化財センターが所有する移動式の展示ケースを用いた出張展示を行っていた。また、平成 28 年度には、9 月になごやかセンターで開催された戦没者追悼集会にあわせて、平和資料を写真パネルや実物を織り交せて展示した。
- (事 務 局) 栗東市立図書館との連携を深めるべきと考える。図書館への来館者を、博物館講座「かまどめしを炊こう!!」などの博物館の事業に呼び込むほか、博物館の展示に関連した図書を紹介してもらうなど、上手に連携すれば大きな効果があるのではないか。
- (事 務 局) 現在、図書館との連携は広報面での協力に止まっており、もう 1 歩踏み込めるように検討したい。
- (委 員) 図書館の利用者は多い。滋賀県の文化ゾーン内にある滋賀県埋蔵文化財センターでも、滋賀県立図書館への来館者を引き寄せようと様々な工夫を試みている。
- (事 務 局) 検討していきたい。
- (委 員) 草津市・栗東市連携展示「KURITA BLUR－名産青花と青花紙のある風景－」の関連事業への参加者は、栗東市在住の方が多かったのか。
- (事 務 局) 講演会には、栗東市在住の方が多くお見えだったが、体験会への参加者は市外在住の方が多かった。
- (委 員) 現在では、青花は草津市のものというイメージがあるが、昔は栗東でも作っていた。先ほど話のあった蚕も飼っていたので、民具資料として残っているのであれば紹介すれば良いのではないか。
- 現在、東方山安養寺（栗東市安養寺）で行われている薬師堂の修復工事にともなって、重要文化財の木造薬師如来坐像を博物館で預かっていると聞いた。博物館で公開することはできないのか。

- (事務局) 非常に大きな像で取り扱いが困難であること、また、平成25年(2013)の台風第18号での集中豪雨による漏水の発生後、懸案事項となっていた屋上防水工事を平成27年度と平成28年度の2か年にわたって施工したが、今年度中の重要文化財の公開は規定等の関係から行えなかった。平成29年度の(案)にあがっている収蔵品展「(仮称) 仏教美術を中心に」では、寄託を受けている重要文化財も紹介するが、将来的には外部から借用した重要文化財の公開も行えるよう環境を整え、技術の向上にも努めたい。
- (委員) 平成2年(1990)の開館以来、仏像を紹介する展覧会を多く開催してきたことで、仏像を中心とした博物館というイメージが定着している。仏像を紹介する展示を行ってほしい。
- (委員) 草津市・栗東市連携展示「KURITA BLUR—名産青花と青花紙のある風景—」の講演会は、新聞に掲載されたこともあって遠方からの来場者があったようである。
市民学芸員の会の活動も、新しい会員を募りつつ、継続していきたい。
- (委員) 新しい会員を増やすためにも、異なった視点からテーマを設定し、参加者を募ってみてはどうか。
- (事務局) 近年、現地見学会などのフィールドワークが開催できていないので、そういった取り組みを検討したい。
- (委員) 古文書研究会も、読解する史料を上手に選択すれば活性化するのではないか。
- (委員) 現在、多くの方が60代で定年を迎える。定年を迎えた人に参加してもらえる取り組みを行ってはどうか。
- (委員) 高齢者が参加できる取り組みが必要と感じる。
- (委員) 栗東市立図書館との連携に関連して、以前、栗東市立図書館で絵画の貸し出しが行われていた。現在、図書館ではそういった取り組みは行われていないが、博物館で絵画を展示し、来館者を呼び込んではどうか。
- (委員) 先ほど話題になっていたように、高齢者の興味・関心に応えることも大切であるが、多くの子どもたちが博物館に関われる機会も増やして欲しい。現在、職務で小学生向けの福祉学習に関わっているが、小学校ではカリキュラムが固まっており、日程調整が難しくなっている。博物館教室「昔のくらし」についても、日程調整が難しいかも知れないが、栗東市内の9小学校については確実に受講してもらえるような工夫が必要ではないか。
- (事務局) 栗東市内の9小学校については、全ての小学校に受講していただけるよう調整している。教員間での引き継ぎが行われていない場合もあるようなので、過去には校長会での案内も行ってきた。

- (事務局) 平成 29 年度の博物館教室「昔の暮らし」についても、3 月の校長会で案内を行う予定となっている。
- (委員) 博物館教室「昔の暮らし」での来館の場合、展示は見学されるのか。
- (事務局) 体験型のプログラムということもあり、展示を見学される学校は少ない。
- (委員) 多くの時間は割けなくても、例えば第 1 展示室の通史展示だけ見学してもらっても良いのではないか。展示を見学してもらい、興味をひきつけるのも学芸員の腕前の見せ所であり、子どもたちに興味を持ってもらうためにも、展示を見学してもらうことが必要と考える。
- (委員) 学芸員の腕前を感じられる、見ていたくなる展示、聞きたくなる解説というものは確かに存在すると思う。
- (委員) 見学するときに、学芸員の解説がつくと分かりやすくなる。小学校の教員が下見に来られたときなどに丁寧に説明しておく、子どもたちにも伝わりやすい。
- (委員) 子どものときに博物館で体験したことがきっかけとなり、学芸員を志望するというケースもある。
- (事務局) 栗東市出土文化財センターが実施している発掘体験に参加したことで興味を持ち、のちに化石発掘の専門家になったという方もおられるが、きっかけを提供することが大切と感じる。
- (委員) 博物館への来館者は急に増えるものでもないので、将来の来館者を増やす意味でも、子どもたちをひきつけることは有意義である。中でも、通史的な展示は選りすぐりの資料を紹介しているものでもあり、大切である。
- (委員) 市民学芸員の会の活動は、面白い取り組みと感じる。他館では、ボランティアによる解説を行っている館があるが、市民学芸員が展示解説を行うことはないのか。
- (事務局) 現在、そのような取り組みは行っていない。平成 27 年度に開催した企画展「竹村定治コレクション 鉄道模型の世界」は、市民学芸員の会が中心に調査・整理を進めてくださっているコレクションを紹介するものでもあり、部分的に解説をお願いした。やはり平成 27 年度の特集展示「文化財と拓本」では、市民学芸員の会の会長に採拓をご協力いただいたほか、解説や実演をお願いした。
- (委員) 川崎市の日本民家園では、各民家に解説員がおられ、民家への愛着が感じられる解説をして下さる。そのような方法も検討してみてもどうか。展示解説には専門的な知識も必要となり、全ての解説を行うのは難しい。
- (事務局) 栗東市ボランティア観光ガイド協会でも、多くの会員が所属しておられるが、専門的な知識に即した解説となると難しいようである。
- (委員) 解説員が常時いなくても、声をかけてもらいやすい、敷居を下げる工夫が

必要となる。

- (委員) 滋賀県立近代美術館では、ボランティアが展示解説を行っておられる。市民学芸員の会でも行っていければと思うが、専門的な知識に関することなど、博物館で研修を行って欲しい。
- (委員) 全ての分野について解説することはできなくても、各自の興味・関心がある分野について深めていくことは可能なのではないか。
- (委員) 滋賀県内では、彦根城博物館でもボランティアによる展示解説がある。自身の知識や経験を伝えていく喜びが積み重なれば、来館者にも多くのことが伝わり、良い循環になっていくのではないか。

④その他

- (委員) 展覧会開催に係る経費は確保できているのか。
- (事務局) 今後、重要文化財の公開を進めていくためにも、確保に努めていきたい。

4. 閉会

お礼と閉会のあいさつ (松村 浩 歴史民俗博物館長)